

ると右手よりスラブ滝が落ちてきている。F5四がをすぎるともう沢もおしまいである。右にヤブをこいで登山道を目指す。

(記・上)

(タイム)

橋七・四〇―長倉沢分岐九・二五―沢終了一四・一〇

渋川

一九八〇年九月十四―十五日

◆九月十四日(天気・晴時々曇)

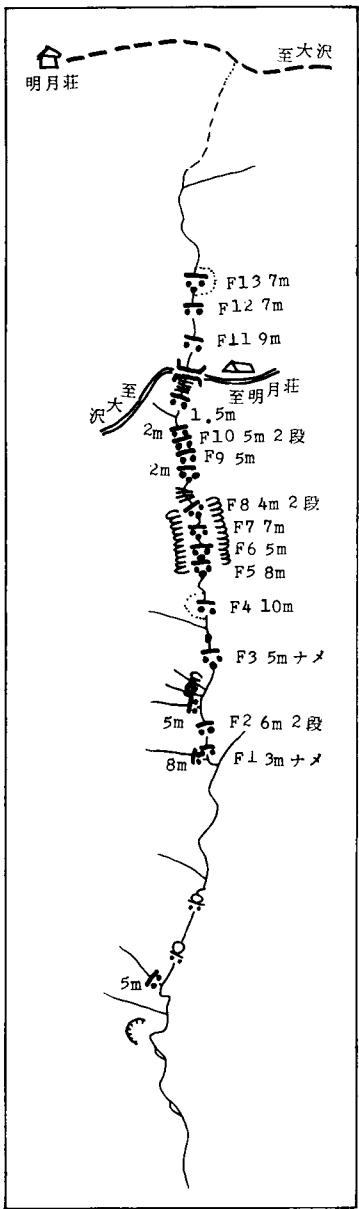
海上沢に続いて渋川に入る。初めは河原歩きである。河幅も広く意外と進まない。所々に中洲がある。二俣かと思ひメモをとるとすぐ合流して中洲とわかる。一時間三〇分程歩くとゴロ状になり、チョックスストーン滝が出てきた。捲いていくので時間をとられなかなか進まない。二俣に出た。右の方が水量が多いが、地図、川床の様子からみて左が本流である。本流に入るとすぐにF1三ナメ滝とF2上部が傾斜のゆるいナメ滝となっている二段の滝。F1には右岸より小沢が滝となつて入っている。



渋川・F5



渋川・F11



澁川 (作図: 〃)

しばらく歩くとF3五段、又、しばらく歩くとF4一〇段。ちよつと直登は無理。右岸を捲く。右、左と沢がかかり兩岸はせまってくるような岩場。F5〜8と滝がかかり兩岸はせまってくるような岩場。沢も曲がりくねっている。ここを過ぎしばらくいくと小滝とF9五段、F10五段二段が連続してあらわれる。少し行くと橋に出る。一七時四〇分。うす暗くなってきた。林道にテントを張り、今日の行動を終える。

〔タイム〕

出合一二・二五―林道(ビバーク)一七・四〇



澁川・F13

◆九月十五日 (天気・快晴)

林道の上はゴロである。下のゴロとはちがった感じで、岩はデコボコのうえコケが付いている。沢自体もぐんぐん高度をかせぐ。F11二段一〇^分を過ぎ少し進むとF12七^分、またすぐにF13七^分。ここは直登はちよつと無理。左岸を捲く。上に出ると川原。川幅もあまりない。平坦な沢で、所々曲がりくねっている。一時間余りで二俣。右には水流があるが左が本流のようだ。ヤブがかかってくるが、そのまま先に進むと、明月荘に至る木道に出た。

〔タイム〕

林道六・五〇―沢終了九・三〇―木道九・五〇―明月荘一〇・〇〇

(記・ヤ)

砥 沢 (下降)

一九八〇年六月二十九日

◆天気 (曇り時々晴)

冷水沢からヤブこぎで砥沢に降り立つ。時刻は、一〇時〇五分。時間的にまだ早いので、上部を偵察に出ると、

思わぬ滝の連続である。地形が平坦になるまでつめ、右にヤブをこいでもう一つ右の支沢を下降する。こちらにも立派な滝があった。一時間半程かかってもとの地点、冷水沢からのヤブこぎで出たナメの所に戻る。

一息いれて下降開始。すぐに林道に出る。ここから下は平凡となる。一時間二〇分程で木材の伐採地に出て、ここから右の尾根上の林道に上がる。(記・ヤ)

〔タイム〕

出合一〇・〇五―遡行終了一〇・五〇―右沢一〇・五五―一・一五―本流一・三〇―林道一・四五―下降終了一三・二〇―林道一三・四〇

冷水 沢

一九八〇年六月二十九日

◆天気 (曇時々晴)

身仕度を整えて八時遡行開始。沢幅は狭く、石にはコケがびっしりついていて、すでに源流という感じである。とても水が冷たくて長い間足を入れられない。滝は全くかからない平凡な登りが続く。一時間余登り続けたあと、